

読書と新聞で「読解力」を身に着けよう

—塾生全員が「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」に参加しよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：「読解力」とは何ですか。

A：(林明夫。以下省略)

- (1) 「読解力」とは、文章を「読」んで、その意味を「理解」し、「解釈」する「力」のことです。
- (2) 例えば、学校の教科書の文章を読んで、そこに書いてある内容がどのような意味かがよくわかることが「読解力」です。
- (3) 文章を読んでその意味を「理解」したり、そこに書いてあるのはどのようなことなのかがよくわかったりしたほうがよいのは、学校の教科書だけではありません。
- (4) 教材や参考書、問題集も、そこに書いてある文章がどのような意味なのかをよく「理解」することが求められます。また、学校の先生が授業中に黒板に書く内容や授業のプリントもどのような意味なのかを「理解」することが大切です。
- (5) 一方で、「定期試験」や「実力試験」、「模擬試験」、「入学試験」では、そこに書いてある文章の意味がよくわからなければ正しい答えを出すことができず、よい点数を取ることもできません。
- (6) 受験生の皆様は、自分が受験する私立中学校や中高一貫校の入試、高校入試、大学入試などの問題を見たことがあると思います。各教科の入試問題は皆、おしなべて長い長い文章で構成されています。問題の本文はもちろん、設問や選択肢も結構長い文章になっています。英語の問題の本文も、何ページもある長い長い文章になっています。
- (7) このような 5 ページから 10 ページぐらいの長い長い文章を、例えば 50 分間の試験時間内にすべて読み、問題の本文や設問、選択肢の内容を「読解」した上で、つまり、よく読んで意味を「理解」した上で正しい答えを自分の力で考えなければ点数にならないのが入試です。
- (8) 入試問題の中には易しい基本的な問題もありますが、時間をかけてじっくりと考えなければ解けない難しい問題もあります。易しい問題は読んだ瞬間にそこに何が書いてあるかを「読み解き」、短い時間でパッパッパッと正解を出す必要があります。そうしないと、難しい問題をじっくりと解く時間を生み出すことができないからです。

Q : 「読解力」を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 「本を毎日 30 分以上読むこと」つまり「読書」と、「新聞を毎日 30 分以上読むこと」が一番効果的です。

(2) そこで、開倫塾は今年の 7 月 25 日から 10 月 24 日まで「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」の 2 つのコンテストを実施し、「読解力アップ」に努めてきました。

(3) 読書をしていて気に入った語句(ことば)や文章があったら、一文字、一語、一文でもよいので「書き抜き読書ノート」に書き写しておきましょう。

(4) 新聞を読んでいて気になった記事があったら、ハサミで切り抜いて「スクラップブック」にのりで貼り付けておきましょう。

Q : 本や新聞を毎日読むことで得られるものは、「読解力」のほかにもありますか。

A : (1) 読書によって得られることはたくさんあります。作者の経験や考えを知ることができます。また、作者との時空(時や場所)を超えた対話をすることもできます。これにより、思慮深さ(しりょぶかさ)を身に着けることができます。

(2) 新聞を読むことで、「自分で考える力」と、これはおかしいのではないかと考える力、つまり「批判的思考能力」を身に着けることができます。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 偏差値アップ、希望校合格には、教科の学習が大切なのはもちろんですが、本と新聞を毎日 30 分以上ずつ読むことで「読解力アップ」を図ることも欠かせません。「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」を活用して、「読解力アップ」に励んでくださいね。

— 2015 年 9 月 14 日記 —